



成果指標				
成果指標	活動回数			
指標設定の考え方	公民館が核となって事業や活動を展開しながら、コーディネート役として、住民や組織が主役の活動を展開する。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	27	25	25	0
実績	26	23	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	家庭教育学級は、関係者等のスケジュール調整や講師の確保の面で実施することができなかった。内容や実施方法等を再度検討し、実施に向けて働きかけたい。青少年健全育成事業で行っている子ども教室であるが、年々参加者が増加しており、従来の実施方法では運営がむずかしくなっているため、プログラムの内容や実施体制等を再検討するとともに、募集制限も視野に入れて、円滑な運営が行えるよう図っていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	事業内容については、各地区の公民館運営審議会及び公民館の各部会で協議され、各地域独自の内容となっているが、それぞれの地域のニーズ及び地域課題の解決に向けた活動が展開されており、今後も検討を加えながら継続実施する。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題